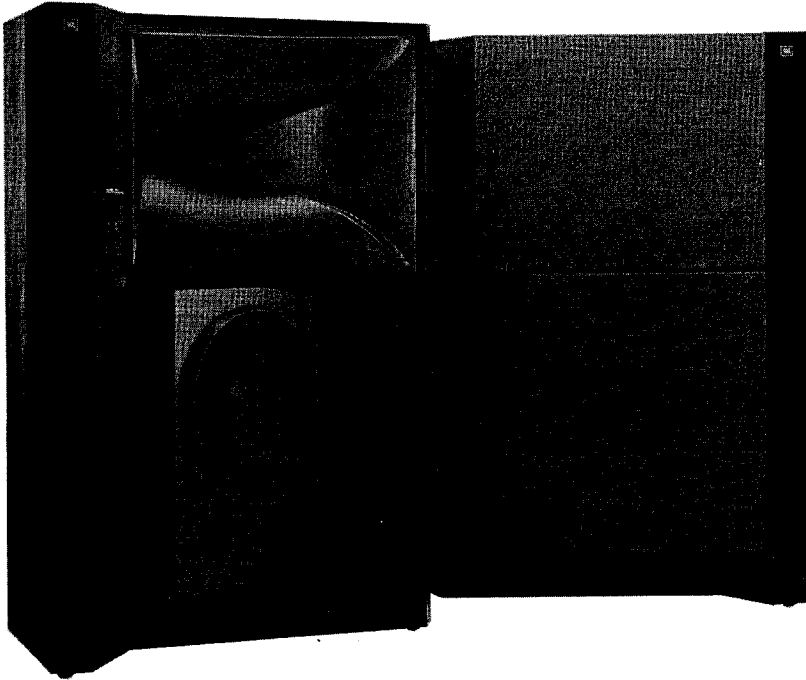


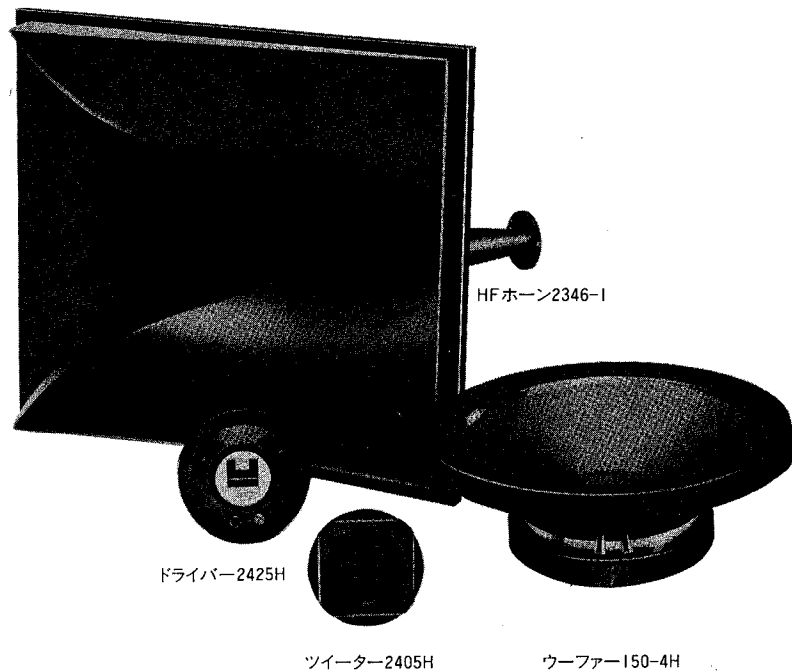


PROJECT
EVEREST
DD55000
INSTRUCTION MANUAL



《内 容》

DD55000スピーカーシステム
設置及び調整方法
基本操作方法
グリル
サービス
仕様



DD55000スピーカーシステム

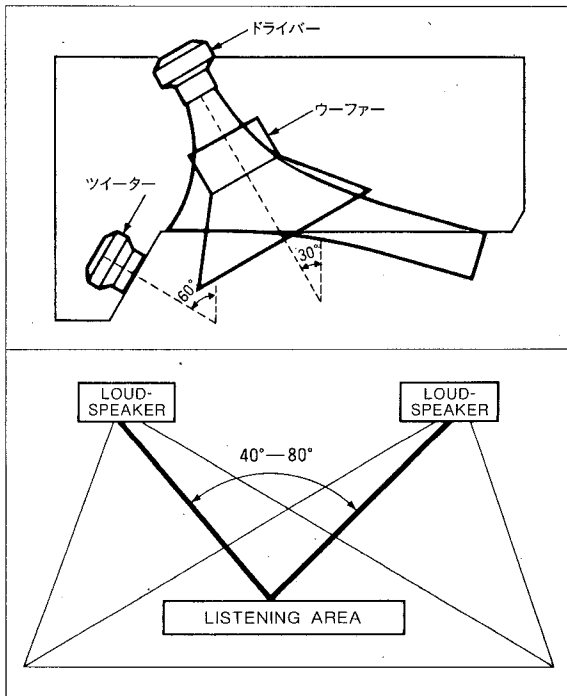
デジタルレコーディングの急速な進展により、ステレオイメージに対する関心が以前にもまして一層高まっています。レコーディング技術者のみならず、一般のユーザーの間にも左右のイメージのほかに、前後のイメージをも問題にするようになりつつあり、またデジタルレコーディングのもうひとつの特長であるハイピーク・アベレージ・レシオを発揮できるようなアンプとスピーカーの要求が増加しています。DD55000システムはこの新しい再生音の二つ問題点を解決することに重点を置いて設計に当たりました。まず第一には、非常に広いリ

スニングエリアに正しくステレオ感を伝える事です。聴角度外にいても聴角度内の人と変らぬステレオイメージで聴くことができます。第二に鋭敏な感度と強力なパワーを持っています。従いまして現在の最大級のアンプでも、安全に受け入れる能力があります。音質を重視する場合、適当なアンプを選べばレコード化された情報をフルダイナミックレンジで再生します。システムにはミドルレンジホーンと高域用ツイーターを搭載し、エンクロージャーはJBLが過去に製作してきたいかなるものよりも大きなものです。

設置及び調整方法

DD55000はミラーイメージの一对のスピーカーでシステムを構成しており、各々の受け持ちチャンネルを使うことによって効果的にステレオ感を出します。

JBLのこれまでのスピーカーは 40° ~ 60° の角度がステレオ感には最適だとしてご案内していますが、このDD55000はリスニングアングルを広げ、場合によっては 80° でもワイドステージなステレオサウンドを聴くことができます。(下図参照)



設置する場所は何処でも問題はありませんが、システムとしての最大の効果を得るためには、壁面の長い方に向けて置くのが良い結果を生みます。部屋の角隅に置くのも良いでしょう。

スピーカーから出る音が付近の壁等で反響を起さぬような場所を選ぶのが効果的です。

まず始めに、スピーカーの前面のアッテネーターを通常ポジションの0 dBにあわせませす。続いてなるべくはっきりとセンターポジションのわかるボーカル等のレコードをかけて下さい。レコードを聴きながら少しずつセンターラインから外れるように移動し、センターイメージがしない所までいきます。センターラインからの距離が少なればイメージの変化も少なく、遠ければ変化は大きくなります。もしイメージの変化が遠い方のスピーカーに偏っている(オーバーステアリング)ようであれば、スピーカーをやや内側にすると遠い方のスピーカーの音が低くなります。一般にセンター角度から遠くに居て聴く場合、遠い方のスピーカーに対して角度が離れ過ぎになっていますので、この方法で調整すれば治ります。しかもほんの少し動かすだけで結構です。逆の場合(アンダーステアリング)は、外側に少し向けて置いて希望のイメージを得られるように調整してください。スピーカーの置く位置が正しく設定されると、センターイメージが広範囲にわたって非常に良好に聴くことができます。

基本的操作方法

DD55000のコンスタントなイメージ特性は、両方のスピーカーの非対称的な水平のパターンによるものです。LFトランスデューサーは、30°のオフセット角、UHFは60°です。MFホーンはスピーカーの前面では広い角度で、軸角度から離れると狭く、色々に変化します。聴く人が両方のスピーカーから等距離に位置していれば、どんなスピーカーでも正しくステレオイメージを感じることができですが、聴角度から外れると、ステレオイメージが近い方のスピーカーに傾きがちになります。手前のスピーカーの音の方が大きく聞え、かつ耳に早く到達するからです。この結果ステレオステージが歪むことになります。DD55000では聴角度外の人でも遠い方のスピーカーの高感度域に沿っていることになり、非等距離の音源からのこの問題を解決できたのです。スピーカーの置き角度を内にしたり外にしたりして調整すれば、どんな環境下のリスニングルームでも素晴らしいサウンドを得ることができます。さらにこのパスレングスの違いの補正のために、タイムディレイ装置を持たせました。近い方のスピーカーは、遠い方のスピーカーに比べ、当然数百分の何秒か早く耳に到達します。この解決策として採用されているのが、HAASといわれる、先行フォーカス効果を近い方のスピーカーで管理する方

法です。この効果はハイフリケンシー部で強く働き、またUHFトランスデューサーの角度の策定にもこの事を十分に考慮して決めました。UHFトランスデューサーのレベルをコントロールすることによって、各々のリスニング条件下で快適な調和音を得られます。

グリル

スピーカーのグリルは、エンクロージャーやバッフル板、トランスデューサー等の付属として組み立てるものですが、音に精通している方は、HFインフォメーションでの音の透明度を減衰させるとの理由で外している方が多いようです。DD55000ではその心配は殆どありませんので、ユーザーの方の判断でご利用ください。

サービス

修理、点検等でサービスが必要なときは、お買上のお店にご相談ください。あるいは、詳しい内容を明記のうえ当社サービスセンターまで郵送でご相談ください。なお製品の送り返しは、当社からの返事がついてからお願いします。

仕様

(システム)

| | |
|-------------|-------------------|
| 最大許容入力 | 250W/channel |
| ノミナルインピーダンス | 8Ω |
| クロスオーバー周波数 | 850Hz, 7500Hz |
| システム感度 | 100dB SPL, 1w, 1m |

(ローフリケンシートランスデューサー)

モデル: 150-4H

| | |
|---------------|---------------------|
| ノミナルダイアメーター | 380mm |
| ボイスコイルダイアメーター | 100mm 銅リボンエッジ捲 |
| マグネット重量 | 10.3kg |
| 磁束密度 | 0.95T (9,500 gauss) |
| 感度 | 98 dB SPL, 1w, 1m |

(ミッドレンジ・ホーン/ドライバー)

モデル: 2425Hドライバー及び 2346-1ホーン

| | |
|---------------|---------------------|
| ボイスコイルダイアメーター | 45mm アルミリボンエッジ捲 |
| マグネット重量 | 4.5kg |
| 磁束密度 | 1.8T (18,000 gauss) |
| 感度(ドライバー軸上) | 110dB SPL, 1w, 1m |

(ウルトラ・ハイフリケンシートランスデューサー)

モデル: 2405H

| | |
|---------------|----------------------|
| ボイスコイルダイアメーター | 45mm アルミリボンエッジ捲 |
| マグネット重量 | 1.9kg |
| 磁束密度 | 1.75T (17,500 gauss) |
| 感度 | 105dB SPL, 1w, 1m |

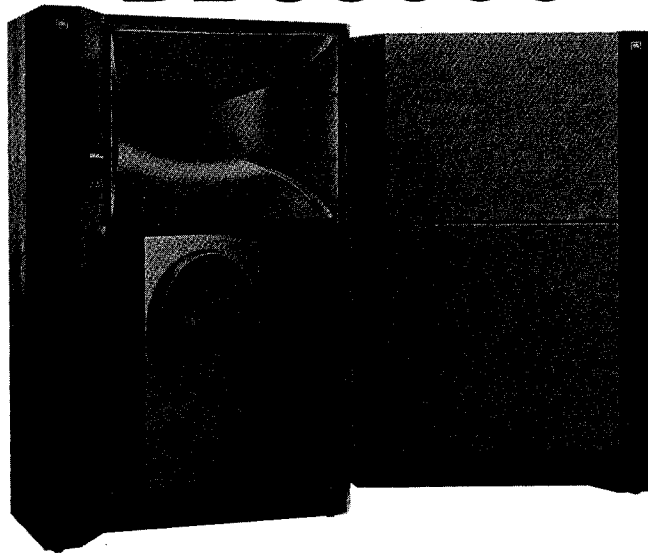
(総合)

| | |
|------|-----------------|
| 寸法 | 141cm×92cm×51cm |
| 正味重量 | 145kg |
| 梱包重量 | 209kg |

(付記)

JBLでは品質改良のため、常時研究を続けており、このため予告なく新しい材質、材料、生産方法、意匠の変更を行うことがあります。従いまして記述と異なる製品になる場合がありますが、特に記す場合を除き、現行商品と同等かそれ以上の性能でございますので、ご了承ください。

EVEREST DD55000



●仕様および外観は、改良のため予告なく変更されることがありますのでご了承下さい。 ●この製品は米国で製作されたものです。

harman international
ハーマン インターナショナル インダストリーズ アジア インク
JBL Japan Division

本社営業本部: 〒110 東京都台東区上野5-7-7 公德堂ビル5F ☎03(836)5641(代)
東京サービスセンター: ☎03(255)5331(代) 大阪営業所: ☎06(301)1396(代) 福岡営業所: ☎092(573)2023